

さくら通信

平成 25 年 5 月発行
《発行者》

さくら動物病院
新聞編集委員

瀧田
牛込

第 17 号

こいのぼりが五月の風に泳いでおります。

皆さんいかがお過ごしでしょうか。あっという間に今年も、半分が過ぎようとしています。五月になり、だいぶ暖かくなってきましたね。そういえば皆さんはこんなニュース、覚えてらっしゃいますか？

「マダニ媒介の感染症、国内で発生」

ちなみにこの感染症、**重症熱性血小板減少症候群(SFTS)**というそうです。

怖いですね。現在まで、8 人の方が亡くなっているそうです。この感染症の動物への感染発病についてはまだ明らかになっておりません。

前置きが長くなってしまいました。何が言いたいかといいますと！皆さん、ワンちゃんネコちゃんたちのノミ・ダニ予防、なさってますか？

当院で出来るノミ・ダニ予防の方法ですが、右に示しました、**フロントライン**という薬を用います。こちらのお薬は背部の毛をかきわけ、皮膚に直接つけることで効果を発揮します。一度つけると一カ月効果が持続します。前述しました新しいタイプの感染症の予防はもちろん、ノミ、ダニ、シラミなどがつくのを防げます。



フロントライン

その他にもこの時期は、わんちゃんの**狂犬病**の予防であったり、**フィラリア**の予防、そして**混合ワクチン**

の接種と、やらなければいけないことが盛りだくさんですが、わんちゃん、ねこちゃんたちの健康のため、長生きのために、予防はしっかりしましょう。

獣医師 瀧田陸

お知らせコーナー

5 月休診日：7. 14. 21. 26. 28

午後休診日：2. 3. 4. 5. 6. 9. 12. 16. 19. 23. 30

院長不在日：7. 8. 9. 11. 12. 14. 18. 19. 21. 22.
23. 26. 28. 29 (pm). 30

メールマガジン月 2 回配信！

詳しくはこちら



第 9 回さくらスクール(仮)

日時：8 月 25 日

会場：ベルウィン小諸



上記の予定です。細かい内容については随時、決まり次第連絡させていただきます。

注射でフィラリア予防！ 「フロハート12」

今年もフィラリア予防の季節がやってまいりました。お家のわんちゃんはお済みですか？

ご存じの通り、フィラリアは蚊が媒介する寄生虫で、感染すると心臓にフィラリア虫体が寄生します。すぐに症状は出ませんが、徐々に心臓に負担がかかり最終的には生命に関わる恐ろしい疾患のひとつです。

フィラリア症は **100%予防できる病気**です。

今までは5～11月まで、1カ月に一度の予防薬の内服が主流でした。

しかし、「内服が苦手で吐き出してしまう」「つつい飲ませるのを忘れちゃって・・・」「しっかり飲めているか不安」・・・。

こんなお悩みをお持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

そこで！！

当院では今年から**注射のタイプのフィラリア予防薬**を導入いたしました。

この予防薬は1回の注射で1年間有効性が持続します。外国では10年以上使用されており、安全性も確立されています。

フィラリア予防薬はさまざまなタイプがあり、どれもしっかりと予防ができます。

さらに今回の注射薬の導入によりオーナー様の選択肢がひとつ増えました。

オーナー様もわんちゃんも気持ち良く予防ができますように。

詳しくは病院へお尋ね下さい。

獣医師 宮地



寝る子は育つ！

ワンちゃんの睡眠時間には様々な説がありますが、

平均で12～15時間ほどだと言われています。

子犬だとおよそ18時間にもなります。



ワンちゃんの睡眠は、人よりも短い間隔で深い眠りと浅い眠りを繰り返しており、この浅い眠りの時に夢をみていると考えられています。

口や脛・手足がピクピク動いたり、声を出したりしている時は、ご飯を食べたり走ったりしている夢を見ているのかもしれませんが。また、眠る前に教えたことを、寝ている間に学習しているとも言われています。まさに「寝る子は育つ」ですね。



睡眠中の様子で、心配なことがありましたらいつでもご相談ください。

おうちのワンちゃんが、今日も幸せな夢を見られますように！

動物看護師 井出

新人紹介コーナー



はじめまして、4月からさくら動物病院で働くことになりました、佃 祐里恵です。
まだまだ知らないことばかりですが、先輩方の姿を見習って、精一杯頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



4月からさくら動物病院で働かせていただきます。トリマーの関 紗也加です。
トリミングの事だけでなく、病気についても勉強していきます。まだまだ未熟な所もありますが、目配り、気配り、心配りを大切に頑張ります。よろしくお願いします。



はじめまして。2月からさくら動物病院で働かせていただいている臨床検査技師兼細胞培養師の吉越 千夏です。お預かりした細胞ひとつひとつ大切に培養していきたいと思います。また、飼い主様の再生医療に対する不明な点や不安に思う点に気付き、解消できるよう日々勉強していきます。



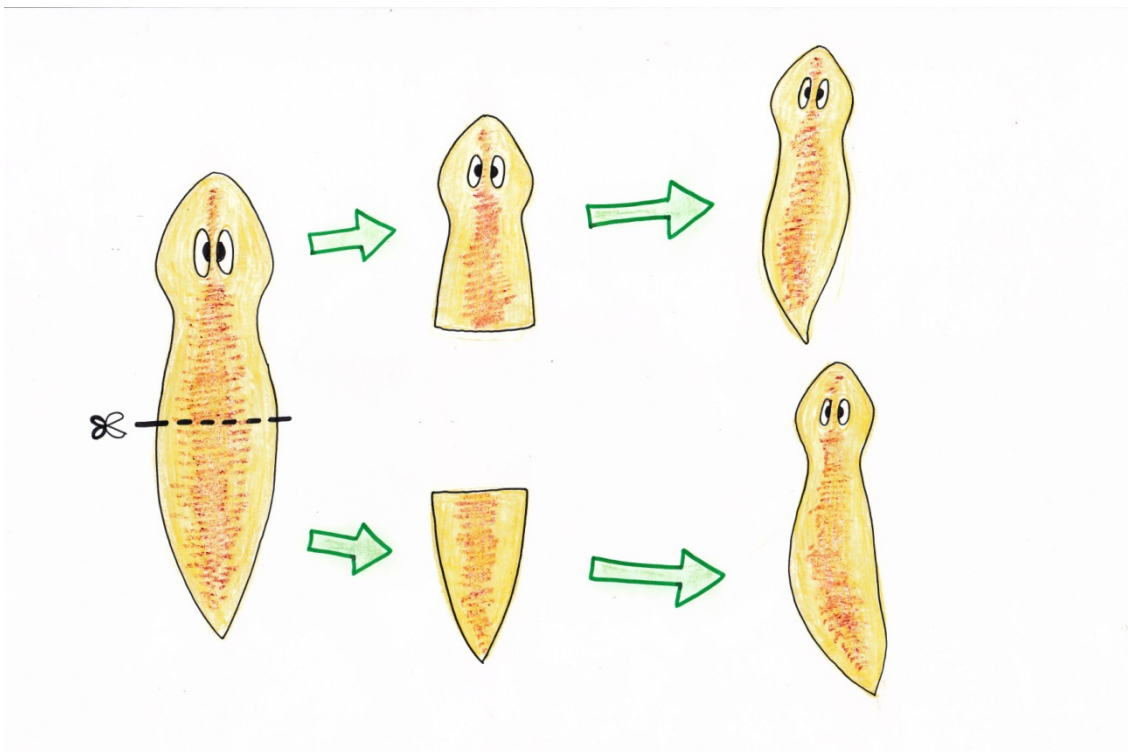
【からだの再生 –自分で自分の体を修復–】

「プラナリア」という生物を見たことはありますか？ちょっと不思議な形をしており、大きさは約1ミリ程度とごく小さな生物です。

興味深いことに、このプラナリアを半分に切ると、その半分から元の形と全く同じプラナリアが作られます。つまり1匹だったプラナリアが2匹になります。(イメージ参照)。この能力を「再生能力」と呼んでいます。

このプラナリアも、そして私たち人間や犬、猫も同じように細胞が集まってできています。半分に切られたプラナリアが元の形に戻ったように、生物には「ケガや病気で壊れた自分の体を、自分の力で戻そう」という働きが存在します。生物には再生能力が潜在的に備わっていると考えられます。

医学や生物学の研究が進んだことにより、この生物の持つ再生能力の背景には「幹細胞」という細胞が重要な役割を果たしていることがわかってきました。



院長

編集後記

本来なら暑い日もでてくる今日この頃ですが、今年は寒かったり暑かったり、忙しいですね。私たち同様、ペットの子たちも体調を崩しやすい季節です。私も実家に猫が2匹いるのですが、親からのメールに添付された写真を見る限り、元気に自由に、食べ物を漁っているようです。困ったものです(笑)

春になり、当院にも新人という新しい風が吹き込みました。そんな風に吹き飛ばされないように、私も二年目の獣医師として、磨きをかけていきたいと思えます。それではまた。

獣医師 瀧田